

8:1 そのころ、再び大勢の群衆が集まっていた。食べる物がなかったのので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。

8:2 「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。」

8:3 空腹のまま家に帰らせたら、途中で動けなくなります。遠くから来ている人もいます。」

8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

8:5 すると、イエスはお尋ねになった。「パンはいくつありますか。」弟子たちは「七つあります」と答えた。

8:6 すると、イエスは群衆に地面に座るようになり命じられた。それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、配るようにと弟子たちにお与えになった。弟子たちはそれを群衆に配った。

8:7 また、小魚が少しあったので、それについて神をほめたたえてから、これも配るようになされた。

8:8 群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。

8:9 ここには、およそ四千人の人々がいた。それからイエスは彼らを解散させ、

8:10 すぐに弟子たちとともに舟に乗り、ダルマヌタ地方に行かれた。

8:11 すると、パリサイ人たちがやって来てイエスと議論を始めた。彼らは天からのしるしを求め、イエスを試みようとしたのである。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

8:12 イエスは、心の中で深くため息をついて、こう言われた。「この時代はなぜ、しるしを求めるのか。まことに、あなたがたに言います。今の時代には、どんなしるしも与えられません。」

8:13 イエスは彼らから離れ、再び舟に乗って向こう岸へ行かれた。

イエス様は人々を「かわいそうに」思われましたが、そのみわざには目的がありました。それは神の国の真理を教えることです。ですからそのみわざは、パリサイ人が求めるような「しるし」ではないのです。主のみわざを求めるとき、自分勝手な求めではなく、主の「みこころ」として、それを求める必要があるのです。

パンは始め少なかったのですが、7つあったということは、7は完全を表す数字ですから、それで十分であったということなのです。少ないものでも、それをお用いになるなら、十分なのです。また主がそれをまた余ったものを集めてもまた7つのかごを満たしました。主のみわざがどれほど多くの人々を満たすかがわかります。たとえ余りもののように、感謝と満足の人となりましょう。

